

小児看護学実習 保育園 実践外活動学習 (氏名:)

保育園で起こりやすい事例について、出現した症状から考えられる疾患、看護師としての具体的な対処行動について考えなさい。

事例1

4歳男児。登園時保護者から発熱等体調不良など特に変わった様子はないと報告を受けた。クラスでの朝の挨拶、出席点呼後、外で遊び始めてしばらくすると「おなかが痛い・・・」と泣き出した。その後嘔吐、水様性下痢が見られた。その時、どうすべきか考えなさい。

①考えられる疾患：ノロウイルス胃腸炎

②アセスメント：

- ・急激な消化器症状が起こるため、現在見られている症状（下痢、嘔吐、腹痛）以外に発熱が見られていないか。
- ・子どもでは主症状が下痢よりも嘔吐が多いため脱水症（重症度の評価）を起こしていないか確認する必要がある。
- ・年少になるほど吐物による誤嚥や窒息のリスクも高い。
- ・保護者へ連絡し原因（経口摂取内容、家族内での発症の有無など）確認する。
- ・他の子どもたちに同様の症状がないか確認する。（保育園での給食が原因の場合もあるため）

③具体的行動：

- ・クラスの他の子どもと別の部屋に移す。
- ・補水できるようにあれば補水させる。
- ・クラスの子どもたちへの手洗いの実施、タオルの共有などは厳禁とする。
- ・症状がある子どもが使用したトイレを他の子どもたちと共有しない。
- ・吐物の取扱いに注意（標準予防策の実施）する。消毒液を作成し、子どもが触りそうな場所や身の回り（トイレのボタン、便座、ドアノブ、手すり、水道の蛇口、階段・廊下の手すり、嘔吐した場合は床などの拭き掃除（消毒）を行う。
- ・消毒液が子どもたちの口に入らないように取り扱う。
- ・保護者への連絡し詳細を報告後病院受診行動の指示を行う。

***小児看護学概論のテキスト P.383～嘔吐、下痢、脱水の内容を再確認すること。**

脱水の重症度と症状については P.393 表 5-26 参照

2、6%次亜塩素酸ナトリウム液を希釈して0.5%液を3リットル作る場に必要原液の量 ml を求めなさい。

答え：① $6\% \div 0.5\% = 12$ $3000 \div 12 = 250\text{ml}$

② $6 \times X = 0.5 \times 3000 \rightarrow 6X = 1500 \rightarrow X = 1500 \div 6$ 答え 250ml

事例2

5歳女児。急に活気がなくなり発熱と同時に発疹が出現した。頸部リンパ節腫脹が見られた。その時、どのようにアセスメントを行い、行動をすべきか考えなさい。

①考えられる疾患：風疹

②アセスメント：

- 風疹特有の症状の観察（紅色斑丘疹、発熱、頸部リンパ節腫脹、結膜の充血）
- 発疹の観察を行う
- 時間とともに増えているか
- 出ている場所は（どこから出始めて、どう広がったか）
 発疹の出方：顔→体幹→四肢の順
- 発疹の形は？（盛り上がっているか、どんな形か）
- 掻痒感があるか
- 痛みを生じているか
- 他の症状は見られないか（咽頭痛などの上気道症状、頭痛・発熱に対する対象療法などを観察し疾患の特定を行う
- 他の子どもにも同様の症状がないか確認する

③具体的行動：発熱を伴っているため別室に移動させる。

- 体温が高く、発汗が見られる際は部屋の環境や寝具に気をつける
- 爪が伸びている場合は短く切り、皮膚を傷つけないようにする
- 皮膚に刺激の少ない下着を着せる
- 脱水が起こりやすいため水分やのど越しの良い食事を摂取させる
- うがいが可能であれば実施し二次感染を予防する
- 保護者に直近2～3週間の間に周囲での感染がないか確認する

***少ない情報からアセスメントしていく能力が求められます。
これまでの学習した内容を再度確認しましょう。**